

全国鐵構工業協会 青年部会 第33回全国大会（東京大会） 全国会長会議

第1部

全国統一テーマ

「これからのF A Bの在り方について」

2024年4月20日

全国会長会議 第1部 全国統一テーマ「これからのF A Bの在り方について」

1. 加工技術面
2. 運搬（2024年問題対策）
3. 現場施工面
4. マーケティング（営業面）
5. 資格・社内教育
6. 福利厚生
7. コンプライアンス
8. S D G s について
9. 今後考えていかなければならない事

1. 加工技術面

製品の位置情報などを把握しながらの**出来高管理**

社員全員、とくに**若い世代の社員**が工程管理もできるようにしなければならない

D X化、ファブタス (<https://app.fabtas.jp/>) などの活用

C A Dも進化しているが、ファスナーや金物などの入力は現場を知らないと間違いやすいので、そういった部分を解消できるソフトが出てくると**若い世代**も入力しやすくなる

今後ますます自動化が進むと思われるが、必ず人の技術や能力は必要であり、**熟練工は貴重な存在**になる

複雑な形状やデザインが増え、品質要求も高くなってくるので、**新工法や設備**を柔軟に取り入れ、作業時間の短縮や人的ミスの軽減にしたい



2. 運搬（2024年問題対策）

運搬コストの上昇

首都圏へ行く場合、県によつての**運送費の差**が激しくなる
（陸路から海路の活用も試みるがどうなるか不明）

積込・荷下ろしする際は、悪天候時でも屋外で行うこともあり、
物流業界のなかでも敬遠されることもある

工区分けの細分化で**台数が余分**に増える



2. 運搬（2024年問題対策）

積載率を高くし **台数を減らす**（法律と安全な範囲内で）

土日祝・月曜・連休明けの搬入は避ける
現場での長時間待機、**無理な工程の要求等**がように交渉

見積もり内にも条件項目として表記する。
また月曜搬入の場合は別途費用発生と見積書に明記する。

悪天候による現場作業中止を早めに決断し、前日や当日 **キャンセルなどを減らす**

余裕のある材料入荷を心掛け、各メーカーや業者の車両の空き具合により、**希望日にも応えてあげる**

少しでも輸送コストを下げる為、**積みやすい架構への変更を提案**する



2. 運搬（2024年問題対策）

一般的にアナウンスされているので、これを機に価格転嫁の交渉チャンスにする

ゼネコンには現状を理解してもらい、費用や工期面をしっかりと施主にアナウンスしてもらいたい

全国共通事項として実施していきたい



3. 現場施工面

現場工程の省力化などの考慮、軸力検査などの**不要な検査項目を省く**

ただでさえ人手不足の中、ゼネコンでも職員不足で外注に依存しているのに、**F A Bに現場常駐を押し付けるのはやめてほしい**



建方作業者の作業環境を鑑みて、適正な報酬を支払い、そのための**適正な価格での受注**が必要

4. マーケティング

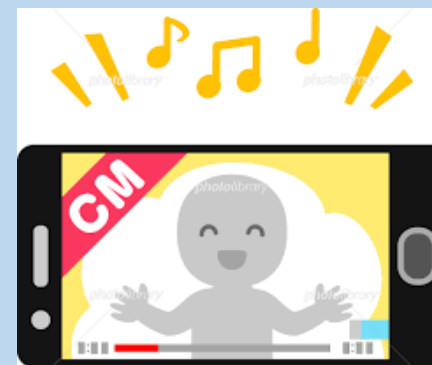
自社の強みを生かした仕事への**特化および単価の上昇**（付帯工事やデザイン建築など）

M & A への流れ（ゼネコンによるM & A, F A B 同士のM & A）

M & A の基礎知識の**勉強**



地域特化の**C M**戦略（催しへの参画・協賛など）



5. 資格・社内教育

「人は企業の宝である」ロボットだけでは製作はできません。社員の生産性を向上させる必要がある

生産性向上には設備投資もあるが、その前に人材育成である

資格保有者の高齢化、退職で資格数の維持が難しくなっている

資格の種類・数が多すぎる。また資格取得や維持にコストがかかりすぎ



5. 資格・社内教育

資格取得支援（取得コストの全負担）や、社内教育制度の充実をうたい、新卒者を中心に人材確保を行っている

国家資格取得の為に専門学校への学費支援や、業務時間内での勉強する時間を設ける（通信講座の受講の推進）

社内教育により、他部署の業務を勉強したり、マニュアルを作成し、若手を中心とした勉強会を開催

入社後、自分の成長姿（ステップ）がわかるような教育プログラムの作成、**将来の見える化**をする（若い世代は自身の将来が想像できないと不安）

新人や若手には、専属の教育担当をつける（現役世代の考え方も変えていくことが必要）

資格を取得する事の**個人や会社へのメリット**を教えなければならない

コミュニケーションをとって連携、職場の雰囲気作り、



5. 資格・社内教育

外国人労働者もいる中で、**教本**が整備されいると助かる

資格取得に適應できる**補助金、助成金の案内**が欲しい

社員教育の動画を作成したいが各社単体で製作は難しい。全青会や全構協で作成できないか

社内教育よりも全構協や各ブロックで品質パトロールや教育訓練を行った方が
業界全体としてのスキルアップにつながると思う

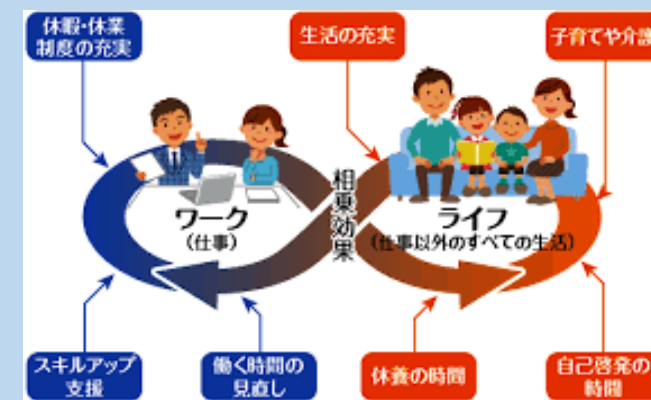


6. 福利厚生

働き手の確保（新規採用も大事だが、現職社員の離職を防ぐことも大事）

ワークライフバランスが取れていないことで、業界の人材が減っている

社員満足度を調査して早急に取り組んで満足度を上げていく
生産性が上がる
顧客満足度につながる



働く環境の改善、従業員とその家族に提供する健康や生活へのサービスの強化

女性雇用の促進のための社内設備の構築

6. 福利厚生



年間休日の増加、完全週休2日制、求職者の多くは年間休日を重視してくる傾向

工期の問題で休日出勤させる場合は、振替日を設けたり、別で手当を付けるなどの対策

育休取得推進、会社独自の有給制度、看護休暇・介護休暇の有給化、支給物の多様性

定期的な懇親会、退職金制度、社員旅行、資格手当、家族手当、住宅手当、家賃補助、
当財形貯蓄制度、使途自由手当、ボーナス月以外のお小遣い、法人契約のスポーツジムの提供、
会社のE T Cを自由に使える

時短雇用、フレキシブルタイムの活用、賃金UP、物価上昇手当の支給、昼食の支給、在宅雇用の検討
(フレキシブルタイム：出退勤の時間を従業員が自由に決められる時間帯のこと)

日給月給制から、月給制へ



6. 福利厚生

大手企業の取り組みを一つでも取り入れてみる

S N S を利用しての企業アピールや社員満足度をUPさせる

社員が満足



その家族にも好印象



会社のイメージアップ



その話を聞いた就職希望者がくる



7. コンプライアンス

ご意見なし

コンプライアンスとは

「法令遵守」のことを指す。企業や個人が法令や社会的ルールを守ることに加え、
企業倫理や社会規範などに従い、公正・公平に業務を行うこと。



8. S D G sについて

子供たちの方が学校で勉強しており、会社面接で「御社の取り組みは？」と聞かれることもある

ノズルチップ活動を社員にも丁寧に説明していき、

S D G s 活動に参加し社会貢献しているとわかってもらう



9. 今後考えていかなければならない事

C A Dや機械設備などは進化している中、**図面遅延**や**運搬**や**労働時間問題**などが追いついていない

図面チェックの遅れによる、製品の出戻り手間

現場監督の技術力の低下、それにより業者同士で打ち合わせをさせられることも



受注の際に、**F A Bからある程度の条件を示して**いく（図面承認までの期日、過剰品質管理要求など）

B I Mは今後主流となり、作図はゼネコンになると思う。
工場経験のない人が作図することで問題も発生してくる



9. 今後考えていかなければならない事

年々、品質管理要求が厳しくなっている中で、**受注単価が上がらない**

契約外の対応や変更等が常態化しており、工程のズレやコストアップが発生している中で、**追加費用等が支払われていない**ことがある。

地域により多少差は出るが、**単価の最低ライン**を決めたい

各社、仕事量の波がある中で、**気軽に協力や応援**をできるようにしたい。



9. 今後考えていかなければならない事

他業種の工場に**好条件での求人募集**をかけられるので厳しくなってくる

他業界の人材確保方法を**意見交流の場**を作り学び実践する
(足場業界などは若い人材が多いように感じる)

5年後10年後20年後の未来を考え、**地位向上やブランディング戦略**が必須

鉄骨業界の地位向上、イメージアップ

F A B業界全体での**アピール**が必要(特に若者へ)。
鉄鋼メーカーがT V C Mをして世間へのアピールをしているように出来ないのか

若い世代、外国人等を雇い入れても直ぐに働けるような**基準類、マニュアルの制作**

新3Kの実現(給与・休暇・希望)に向けて、まずは適正な契約の履行が最重要課題

地域との関わり合いを増やしていく



9. 今後考えていかなければならない事

全青会について、議論だけでその先がない

全青会が各都道府県を引っ張り、現状課題の解決に時間をかけるべきではないのか

青年部会の存続（5年後、10年後の会員数）と在り方。会員確保・維持・増強

全国会長会議 第1部 全国統一テーマ「これからのF A Bの在り方について」

まとめ

地域により多少の違いはあるものの、全国の皆様がほぼ同じご意見・ご不満・ご心配をもっている

全青会として、これらの問題に対して、ひとつでも多くの解決に向けて取り組んでいきたい

そのためには、各ブロック、各都道府県の会員の皆様のご理解・ご協力が不可欠です。

また、全構協との共同・協力も必要となってくるでしょう。

皆様からの貴重なご意見を元に、これからも全青会として尽力していきますので、宜しくお願い致します。

ご清聴ありがとうございました

全青会 16期 副会長 中野貴博